

交流集会「放射線看護モデルシラバスの活用に向けて ——シラバスの解説と意見交換——」

For utilization of radiological nursing model syllabuses: Explanation and discussion

西沢 義子¹ 野戸 結花² 太田 勝正³

作田 裕美⁴ 大森 純子⁵

堀田 昇吾⁶ 青木 和恵⁷

Yoshiko NISHIZAWA¹ Yuka NOTO²

Katsumasa OTA³ Hiromi SAKUDA⁴

Junko OMORI⁵ Shogo HORITA⁶ Kazue AOKI⁷

1 弘前医療福祉大学保健学部

2 弘前大学大学院保健学研究科

3 名古屋大学大学院医学系研究科

4 大阪市立大学大学院看護学研究科

5 東北大学大学院医学系研究科

6 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

7 静岡県立大学看護学部

1 Hirosaki University of Health and Welfare, School of Health Sciences

2 Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

3 Nagoya University Graduate School of Medicine

4 Osaka City University Graduate School of Nursing

5 Tohoku University Graduate School of Medicine

6 Faculty of Nursing, Tokyo Health Care University

7 School of Nursing University of Shizuoka

このたび、学術推進委員会では日本放射線看護学会第8回学術集会において、放射線看護モデルシラバスの解説と意見交換を行いました。文部科学省から提示された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の学修目標に放射線に関する内容が盛り込まれたこともあり、本学会では学術推進委員会が中心となって教育内容について検討してまいりました。モデルシラバスを作成することにより放射線看護に関する教育が推進されることをねらいとしました。法人化第1期の委員が中心となり作成し、理事会の承認を得て2019年4月18日に学会HPに掲載しました。モデルシラバスは科目「放射線看護」1単位15時間版と科目立てはできない場合の2コマ短縮版の2種類です。

本交流集会は法人化第1期・第2期委員と合同で運営しました。太田勝正委員からは放射線診療に携わる高

度実践看護師の現状と看護の重要性、看護基礎教育カリキュラムの現状と臨床現場の課題・問題、原発事故対応の課題・問題をあげ、看護基礎教育カリキュラムの見直しのチャンスであることについて説明がありました。引き続き野戸結花委員より、基本となる1単位15時間版の教育内容を中心に沢山の画像やイラストを提示しながら解説を行いました。第2回放射線の基礎②のデモンストレーション／実技に関しては実際に行っている様子について画像を用いて紹介しました。また、放射線防護の三原則を教授する際に必要な機器の貸し出しを日本アイソトープ協会で行っていることについても紹介がありました。モデルシラバスでは第6～8回で推奨しているグループワークとして、①放射線診療を受ける対象者の被ばくや周囲の人（家族・介護者、医療者）の被ばくと放射線防護について考える、②原子力災害における被災住民の方々の放射線被ばくによる健康影響への不安に対応する、の2例を紹介しました。

交流集会開催は参加者の興味関心が高い特別講演、基調講演と一部重なる時間帯でありましたが、44名の方々にご参加いただきました。意見交換では、開講年次や集中講義の有無等についての質問、現任教育の現状と課題についての紹介もありました。放射線看護の教育を推進していくためには教育と臨床ならびに多職種連携の必要性を確認しました。

アンケート結果では参加者の約83%はほぼこの内容で良いという意見でした。さらに1コマしか時間が確保できない現状があるため1コマ分のシラバスも欲しいなどの要望もありました。また、教育を推進するために放射線看護学会だけでなく、ほかの看護系学会でも主張していきましょうという心強いコメントもありました。

なお、交流集会の様子は学会HPの活動報告にも掲載しておりますのでご確認いただければ幸いです。今後は皆様の意見を反映させながらモデルシラバスのバージョンアップを行ってまいります。